

# 一流選手御用達 スポーツ用グラス



## 山本光学株式会社

### 光を自在にコントロールし スポーツ向けレンズで 国内トップシェア

山本光学は明治44年創業、近く、創業100周年を迎える老舗企業だ。当初は炭鉱現場等で使用する産業眼鏡製品を取り扱っていたが、戦争で工場が全焼。戦後は航空用、スポーツ用ゴーグル等、ニッチな分野に技術を特化し、一気に復活を遂げた。現在ではフィッシング、スキー、オートバイ、ゴルフ向け等のゴーグル・サングラスで国内トップシェアを誇っている。

同社の核となる技術は「光のコントロール」。レンズで光をコントロールするには、素材選びから表面加工まで様々な技術が求められます」と山本直之常務は言う。

例えば釣り場では、従来のサングラスでは、水面のキラつきにより魚が見えなくなってしまう。しかし、キラつきの原因となる、眩しい反射光のみを吸収する偏光レンズを使用すると、水面のキラつきがなくなり、

魚は見えるのだ。

また半導体工場等で利用されるレーザー装置は、直視すると目を傷めてしまう。同社はレンズにレーザー光線の特定波長をカットする特殊材料を組み込み、レーザー光線を完全に遮断し目を保護するレンズも開発している。

世界的なブランドとして知られる同社のスポーツ用ゴーグル・サングラス「SWANS」は、マラソンの有森裕子選手、ゴルフの石川遼選手、プロ野球の谷佳知選手等、各分野のトッププロスポーツ選手が採用する等評価は高い。それらトップ選手の要求に対応し性能を上げ続けている同社は、40年前から世界にも進出。冬季オリンピック・男子アルペンスキー競技で金メダルを獲得した、オーモット選手に提供し、ブランド認知拡大を図ってきた。

また本社近くと東京（予定）にはアンテナショップ「スワンズ・コミュニケーションセンター」をオープン。山本常務は「実際にお客さんに目で見て触ってもらうことで、納得していただける」と話す。

### 「安全文化の創造」を目指す

100年近くにおよぶ同社の歴史は、レンズに使う素材の変遷の歴史とも重なる。まずガラスからプラスチックに変わり、そして現在では強度と軽さを兼ね備えたポリカーボネートを主な素材に使用している。対象とする分野も時代とともに変化してきたが、最近では健康分野に注目しており、医療・福祉用の商

品開発を検討しているという。

同社では、創業100周年を迎えるにあたり、「Protecting For You（安全文化の創造）」を企業メッセージに据えた。これをもとに、防塵マスクや防護具等の開発にも着手。山本常務は、「我々はスポーツならスポーツ、産業用なら産業用とマーケットを完全に絞り込んでいる。その中でさらに機能を特化し、自分たちの強みを活かしているから生き残れるのです」と語る。確固たる信念と技術力で、同社はさらに歴史を積み上げていく。

### 主な事業内容

品・器具・販売  
スポーツ用ゴーグル・サングラス  
産業用保護眼鏡・産業用製造等



山本直之さん  
常務取締役

### 山本光学株式会社

### Company Profile

住所 / 〒577-0056  
大阪府東大阪市市長堂3-25-8  
創業 / 明治44年11月  
設立 / 昭和10年11月  
資本金 / 2億3,088万円  
従業員 / 243名（平成21年1月現在）  
TEL / 06-6783-0232  
FAX / 06-6781-7320

全国  
18

大阪  
15

<http://www.yamamoto-kogaku.co.jp/>